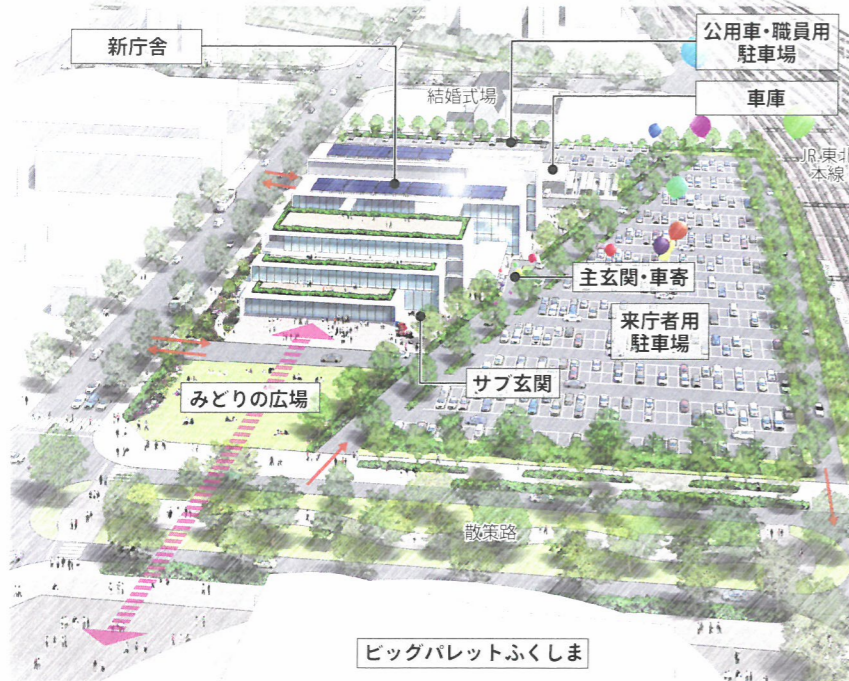


課題(1): 県民の利便性向上及び快適な執務空間の確保に関する提案

風景にとけこみ、まちをつなぎ、ひとを結ぶ 6つの『だんだんフレーム』



地域のつながりを強化する『ナナメの軸線』

- シビックゾーンの一体整備
- ビッグパレットふくしまとのイベント・災害時の連携強化
- 近隣環境に配慮した配置計画

県民サービスを支える『6つのフレーム』

- 機能別の明確なゾーニングによるわかりやすく使いやすい庁舎
- 災害時に即時の機能転換
- フレキシブルな庁舎の実現

地域とともに歩む『だんだん庁舎』

- 郡山の風景との調和
- 県のシンボルとなる庁舎
- 郡山の豊かな自然環境を活用した環境配慮型エコ庁舎

A-1 ビッグパレットふくしまとの連携を強化し、周辺環境と共存する『だんだん庁舎』

ビッグパレットとの連携を高める『ナナメの軸線』

『ナナメの軸線』を中心に西側に庁舎、東側に来庁者用駐車場を配置。共にビッグパレットと近接配置とすることで、イベント時の相互利用や災害時の一体利用が可能な計画とし、シビックゾーンにふさわしい一体整備を目指します。

駐車場はどの位置からも庁舎に近く使いやすく、ビッグパレットへのアクセスが容易な計画とします。

県民の憩いの場となる『みどりの広場』

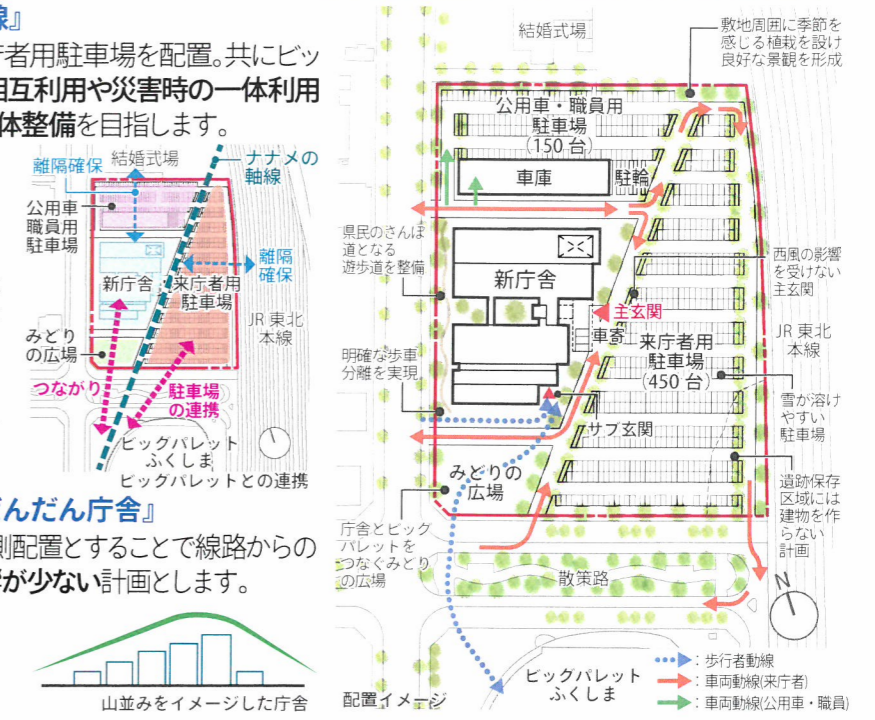
庁舎とビッグパレットの中間に、県民の憩いやイベントで活用できる『みどりの広場』を配置。県民が気軽に立ち寄り自然に集える交流・憩いの場を提供します。

災害時には災害対策活動に活用でき、庁舎の防災拠点機能を高める場として活用可能です。

近隣環境への配慮と郡山の風景と呼応する『だんだん庁舎』

建物を低層化し、周辺への日影の影響を最小化。西側配置とすることで線路からの離隔を確保し、駐車場への積雪の影響や西風の影響が少ない計画とします。

郡山の豊かで美しい山並みをイメージさせる、だんだん状の庁舎。電車や新幹線の車窓からも見える、県のシンボルとなる魅力的な景観を創出します。



A-2 機能性と利便性を高める『6つのフレーム』

わかりやすく利用しやすい段階的なゾーニングの設定

6つフレームによる機能ごとのゾーニングを設定。パブリックからプライベートへと段階的に移行する構成とし、まちと庁舎をゆるやかにつなぎます。

まちに開かれたフロントエリア(①~③)、執務機能を集約したバックエリア(④~⑥)による明快な区分により、来庁者がわかりやすく利用しやすい構成とします。

明快なセキュリティ区分による開かれた庁舎

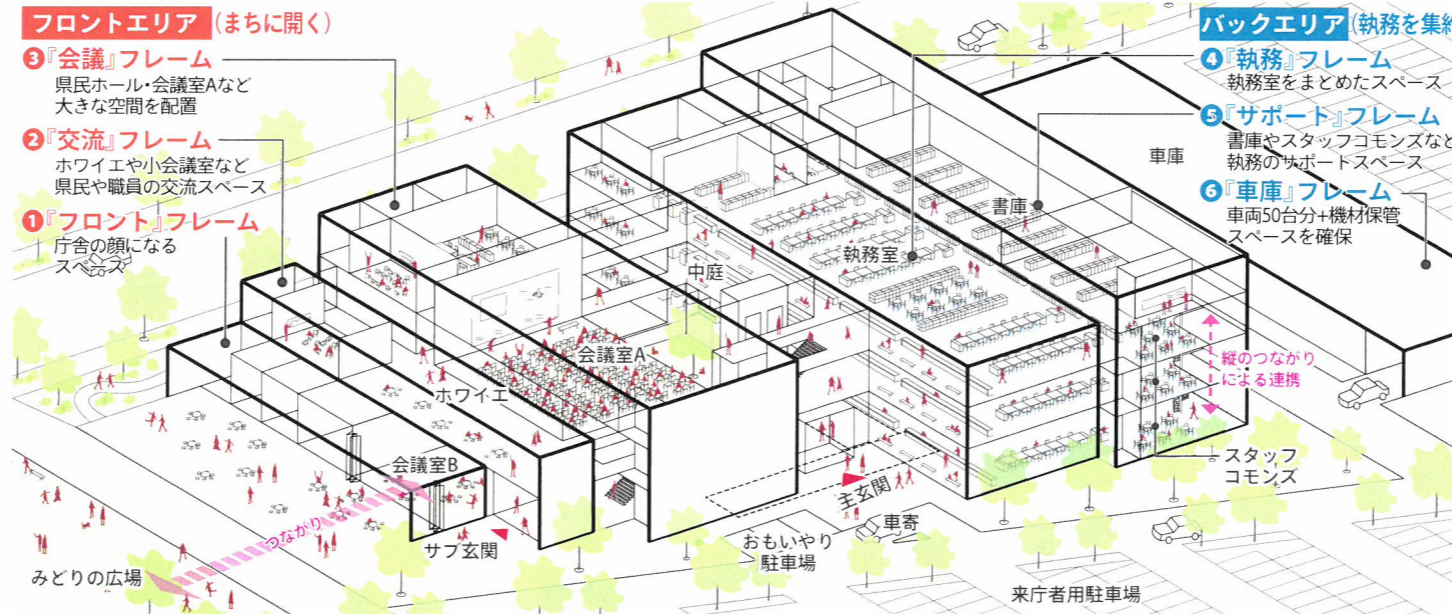
明快なセキュリティラインにより、閉庁時でも、県民ホールや会議エリアの利用が可能な管理しやすい施設とします。会議エリアは各執務室から利用しやすく、県民や庁外の関係者も利用しやすいフロントエリアの2階に集約配置します。

フロントエリア(まちに開く)

- ③『会議』フレーム
県民ホール・会議室Aなど大きな空間を配置
- ②『交流』フレーム
ホワイエや小会議室など県民や職員の交流スペース
- ①『フロント』フレーム
庁舎の顔になるスペース

バックエリア(執務を集約)

- ④『執務』フレーム
執務室をまとめたスペース
- ⑤『サポート』フレーム
書庫やスタッフ commons など執務のサポートスペース
- ⑥『車庫』フレーム
車両50台分+機材保管スペースを確保

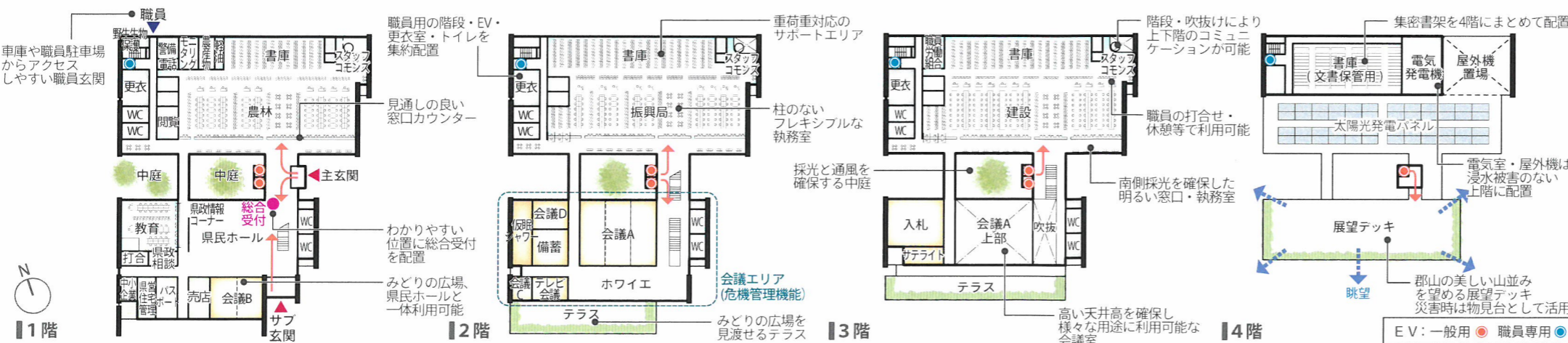
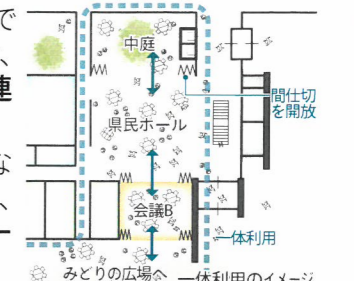
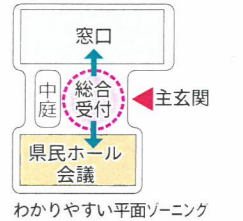


見通しが良く、わかりやすい平面計画

総合受付を中心にシンプルで移動が短い来庁者動線とし、初めて訪れる方でもわかりやすく使いやすい構成とします。中庭を設け、明るく開放的な室内空間を確保。中庭や吹抜により立体的なつながりを生み出し、施設構成が一目で把握しやすい空間とします。

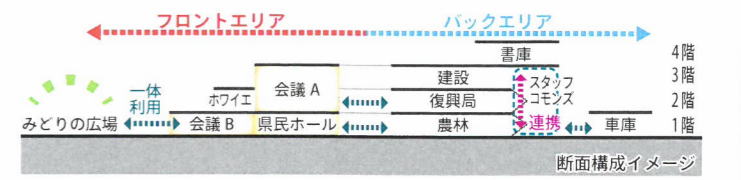
県民の活動の場を広げるフロントエリア

フロントエリアに県民が利用できる県民ホール、会議室を設け、ビッグパレットでのイベントと連携可能な計画とします。1階会議室Bは全面開放可能な開口や間仕切りを設けることで、みどりの広場、県民ホールと一体となった利用が可能です。



低層化と関連機関の同一フロア集約による利便性向上

低層(3階)化により各階フロアを広く確保することで、関連機関を同一階に配置。職員・来庁者の上下移動縮減を図ります。執務室は整形で見通しの良い構成とすることで、連携やコミュニケーションがとりやすい計画とします。職員の打合せ・休憩の場として『スタッフ commons』を整備。吹抜や階段を通してフロア間コミュニケーションも可能です。



課題(2)：県民の安全・安心の拠点となる庁舎のあり方に関する提案

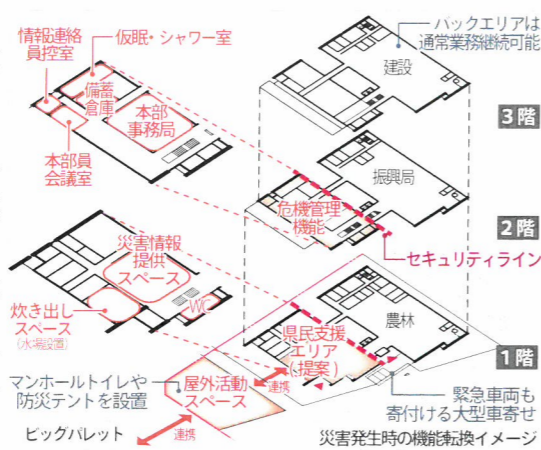
B 災害時における確実な業務継続性(BCP)と機動性を発揮する庁舎

■明快なゾーニングによる迅速な機能転換

災害時は明確なセキュリティラインを設けることで、フロントエリアを危機管理機能に転換し、バックエリアは通常業務が可能な計画とします。

1階は県民支援エリアとして災害情報提供や炊き出しが出来る設えとすることを提案。東日本大震災の経験を踏まえ庁舎全体で県民を支援します。危機管理機能は2階に集約配置し、指示・伝達を一元化します。

指定避難所であるビッグパレットの間に設けたみどりの広場を中心に、シビックゾーン全体で災害対応に取組める計画とします。

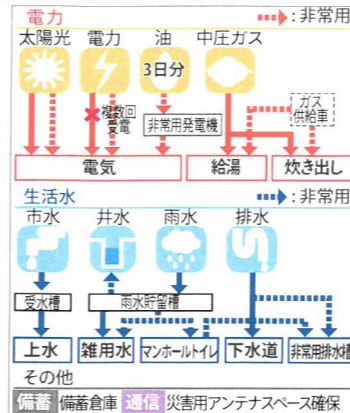


■あらゆる場合も機能を継続するノンダウン庁舎

災害時のライフライン遮断に備え、3日間庁舎機能維持が可能な設備システムを構築します。雨水・井水は災害時の雑用水として利用出来る計画とします。

主要設備機器は複数台設置し、相互のバックアップ可能な計画とします。

自然採光・太陽光等自然エネルギーの活用により、完全な機能停止とならない庁舎とします。



■万が一の浸水への備え

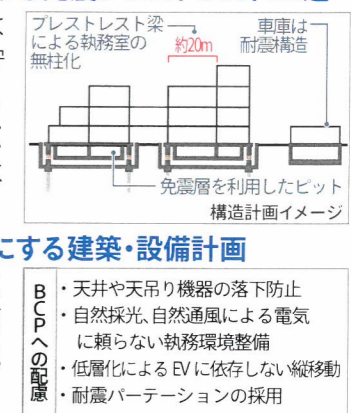
阿武隈川の氾濫に備え、機械室・発電機室は上階に配置。危機管理機能も2階とし、浸水対策を徹底します。近年増加傾向の集中豪雨に備え、降雨量200mm/hに耐える雨樋・外構排水計画とします。

■堅牢で安全な庁舎を実現する免震プレストレストRC造

基礎免震構造の採用により、庁舎全体を地震から守り業務継続性を確保します。堅牢で火災・水害にも強いRC造を採用。プレストレスト化により執務室を無柱化します。

業務継続性を確実なものにする建築・設備計画

災害直後から業務を確実に出来るよう、建築・設備の両面から対策を行い、機能の途絶えることのない庁舎とします。



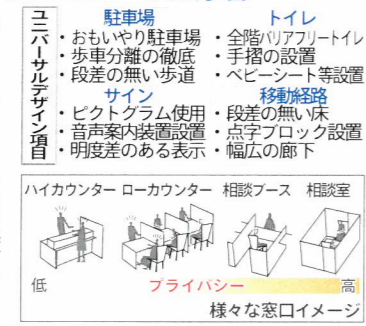
課題(3)：人にやさしく、環境に配慮した庁舎のあり方に関する提案

C 県民に永く愛される、人と地球にやさしい施設

■誰でも訪れやすく使いやすいユニバーサル庁舎

すべての来庁者・職員が使いやすい施設を目指し、ユニバーサルかつバリアフリーへの配慮を徹底します。

車椅子も利用可能なブース型カウンターや相談室を充実させ、県民が気軽に相談しやすく、個別対応しやすい窓口をつくります。



■県産材やエコマテリアルの積極利用

福島県産ブランド材「とってお木」をはじめとした県産材を窓口カウンターや内装に用い、県民の施設にふさわしい温かみのある庁舎とします。

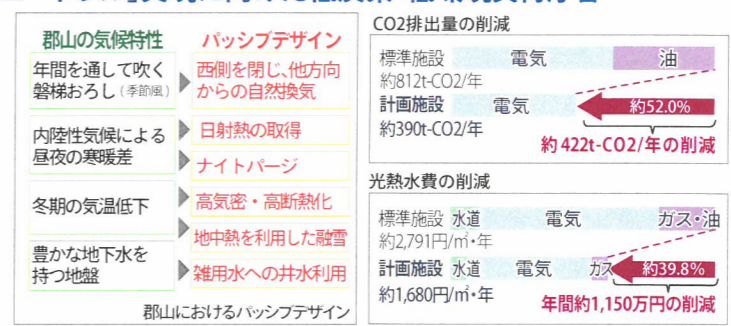
環境負荷を低減するエコマテリアルを内装材から設備機器まで幅広く採用することでエコ庁舎をつくります。



■「福島県2050年カーボンニュートラル」実現に向けた低炭素・低環境負荷庁舎

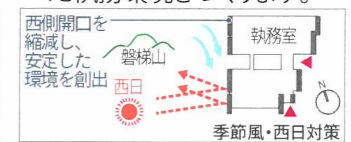
郡山の気候に適したパッシブデザインや先進設備の導入により福島県の推進するカーボンニュートラルに貢献する庁舎を計画します。

地中熱や太陽光等の自然エネルギーを有効利用し、光熱水費を標準建物と比較して年間約1,150万円(39.8%)削減します。



■季節風や西日への対策

庁舎の顔を南側に向け西側の開口を最小限とし、磐梯おろしの影響を抑制します。西日の影響を抑制し、安定した執務環境をつくります。

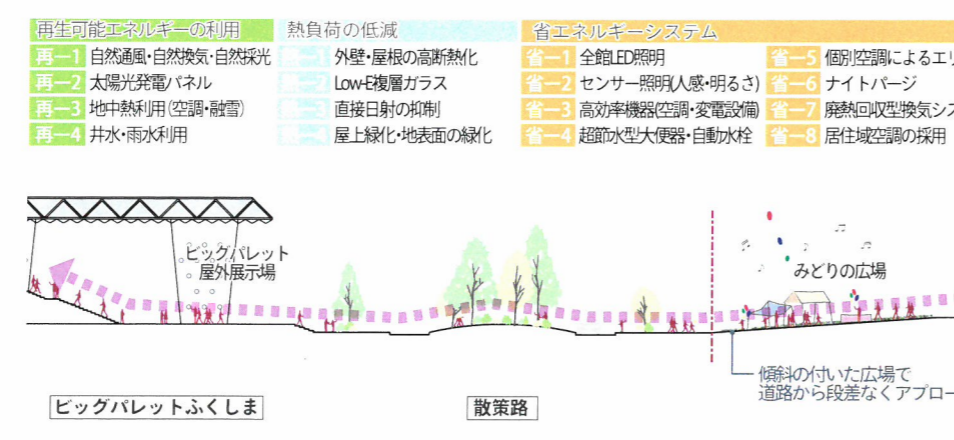


■省エネ技術を駆使し、ZEB Orientedを実現

災害時の継続性向上や環境配慮を目的にZEB(ネット・ゼロ・エネルギー)を推進します。

省エネ手法や高効率機器の採用により一次エネルギー削減率41.7%を達成し、ZEB Oriented(40%以上)を実現します。

創エネとして太陽光発電設備(100kW)を設け、省エネルギー率48.3%を達成します。



課題(4)：社会環境の変化に柔軟に対応できる庁舎のあり方に関する提案

D 社会や行政需要の変化に対応できるフレキシブルで長寿命な庁舎

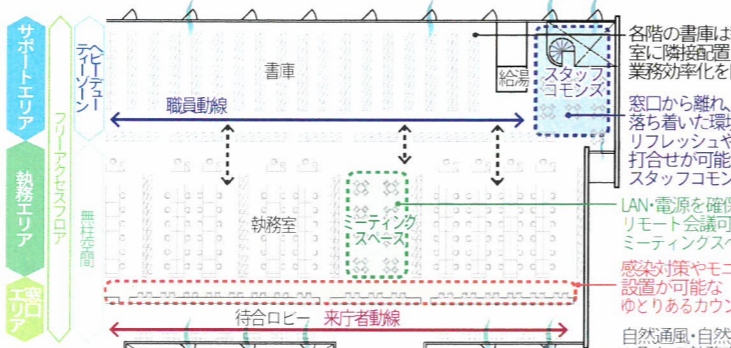
■執務室の可変性と利便性を高める3つのエリア

執務室は壁のないオープンオフィスとし、部署間連携の促進や、組織再編によるデスクレイアウト変更の容易な計画とします。

書庫は執務室と一体化し、庁舎DX化による紙資料縮減時には打合せスペース等の別機能への移行を可能にします。

北側エリアにヘビーデューティーゾーンを設定し、将来の用途変更による床荷重の増大に対応できる構造計画とします。

リモート会議の増加に対応し、小分け可能な会議室やスクリーン・音響等も含めたICT技術の導入を講じます。

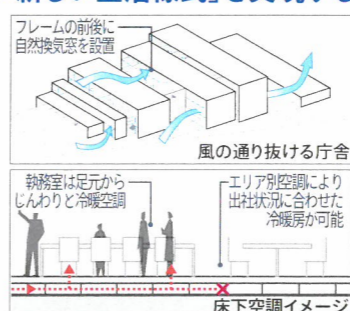


■アフターコロナに対応した「新しい生活様式」を実現する庁舎づくり

中間期は各フレームの合間の外部空間から日常的な自然換気・通風を促進します。

気流の発生しない床下空調の採用により空気の攪拌を抑え、清浄性を保ちます。

抗菌・抗ウイルス性建材の採用など、感染予防を徹底します。



■維持管理のしやすい施設

シンプルで長寿命の内装・外装材採用や、メンテナンス性の高い設備計画により施設維持管理の負担を軽減します。

感染防止への備え

自然換気の工夫

維持管理への工夫

